

児童朝会 校長の話 9月13日

少しずつ秋らしくなってきましたね。秋は月がきれいに見える季節です。中秋の名月といって、昔の暦の8月15日には、お供えをしてお月見をする風習がありました。写真を見てください。きれいな満月ですね。下に見えているのはススキですね。秋の七草で「尾花」と言います。なぜかというススキの穂が動物の尾みたいだからです。浅草小学校の玄関にも今、飾ってありますね。



今年の中秋の名月は来週の火曜日、9月21日です。来週は朝会がないので今日、月の話をします。

月が出てくる素敵なお話があります。エリックカールの「パパ、お月さまとって」というお話です。カールさんの娘さんが3才くらいのときに、きれいなお月様が出ていた夜、娘さんが「パパお月さまとって」と言いました。月は取れないので、カールさんは次の日スケッチブックに「月の本」のスケッチを描きました。それからだいぶ時間が過ぎて、娘さんが28才になったとき、カールさんにお手紙がきました。「毎日塞ぎ込んで憂鬱でいたけど、お父さんのスケッチブックにあった「月の本」を見て元気になった」と書いてありました。それで、たくさんの方が元気になるようにと、その月の本のスケッチを絵本にすることにしました。それでできた絵本がこの「パパお月さまとって」です。どんなお話が紹介しますね。

子供がある日お父さんに「パパお月さまとって」と言いました。お父さんは長い長いはしごを持ってきて山の上に立てて、登っていきました。ずんずん登ってついにお月様に届きました。大きな満月でした。お月様に娘が欲しがっていることを話すと「今は大きくて持って行けないけれど、だんだん小さくなるから、そうしたらどうぞ」と言われました。お月様は

どんどん小さくなって三日月になった頃、お父さんは月を持ってはしごを下りていきました。そして子供に渡しました。子供はお月様と楽しく遊びました。するとお月様はどんどん細くなって突然消えてしまいました。何日かして空を見ると、細い月が見えました。それからどんどん月は大きくなって、まあい満月になりました。こんなお話です。



カールさんの娘さんは、長いはしごを自分の気持ちでどんどん登って行って元気になったそうです。カールさんはたくさん

の人たちに元気を届けようと、スケッチから絵本を作り、世の中に出しました。



私たちの生活は、緊急事態宣言が延長されて、できなくなったり、制限されたりすることがいろいろあります。でも、長いはしごを登って目的地まで行けたらいいなあと思います。そんな長いはしごを是非、皆さんに持って欲しいと思います。

来週の火曜日、中秋の名月のきれいなお月様が見えるといいですね。